

令和3年度 日南市立細田小学校 自己評価書 および 学校運営協議会評価書

学校経営ビジョン

学校の教育目標である「自ら学び、進んで実践する児童の育成」を実現するために、「導き、見守り、見届ける教育」を推進し、「学校は楽しいところ 子どもが行きたくなる 笑顔で過ごせる学校」を学校経営ビジョンの指針に掲げ、子どもが「授業がわかる。出来るようになる。認めてもらえる。」ことの実現に取り組む。

【 評 価 : 4(よい) ・ 3(だいたい) ・ 2(もう少し) ・ 1(くない) 】

評価項目	主な達成手段	判断基準	対象	評価	総合評価	考察および改善策	学校運営協議会委員の意見
確かな学力の向上	◎1 学力向上を目指した授業改善	単元テストの正答率	学校	3.67	3.54	<ul style="list-style-type: none"> 国語科と算数科の単元テストの正答率で期待値85点を超えた学級は、4学級中2学級で、残りの2学級は1教科のみ期待値を超えている結果となり、昨年度よりも微増であるが良くなった。本年度から、児童全員にタブレット端末が行き渡り、「ICT機器を活用した指導法の研究」をテーマにして職員研修及び授業改善に取り組んできている。授業が分かりやすいと肯定的に評価した児童や保護者が、昨年度より微増しており、ICT機器の活用を含めた職員の授業改善が学力の向上につながっていると考えられる。今後も授業を含めた指導法改善に努めていく。 読書量は11月末現在で目標の全校合計3000冊を超えている。学期に1回の読書まつりや家読の日の取組に加え、週1回来校の図書司書との連携や、市図書館の巡回図書室なども功を奏していると思われる。今後は、読書の量だけでなく質の向上も目指していく。 キャリア教育に関しては、全体的に数値が低いが、前年度の反省を生かしてキャリアパスポートの活用も進めてきている。将来就きたい職業を考えさせることがキャリア教育ではなく、近い将来のことも身に付けたい力を意識して諸活動に取り組むことがキャリア教育であるということを児童にも保護者にも伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストでの期待値85点超えの学年・教科が多いことは素晴らしいです。先生方の授業改善の頑張りが現れていると思います。また、ICT機器の利用が進んでいることも素晴らしいです。 我々大人もICT機器の恩恵にあずかり多くの情報を得ている。それは子どもも同じであろう。しかし、本から得られることも多いはずである。読書活動の推進をさらに進めてほしい。 学校全体での読書量3000冊以上の数値は素晴らしいですが、読書量の多い子と少ない子の差も大きいのではないかと。個人差への対応も進めてほしい。 キャリア教育イコール職業教育であるという考えは私たちにもあった。職業教育とキャリア教育との違いを保護者に説明する必要があるだろう。また、将来の夢つまり希望する職業をもつことは大切なことではあるが、小学生のうち希望する職業がなくとも、いろいろなことを体験させていくことも大切である。目的を持って様々な活動に取り組む機会を増やしてほしい。
		主題研究の取組状況	学校	3.71			
		学習指導週間における児童の取組状況	児童	3.50			
		授業が分かりやすいと思う児童の認識	児童	3.75			
		授業が分かりやすいと思う保護者の認識	保護者	3.68			
	◎2 読書活動の充実	読書活動が定着しているという認識	学校	3.33			
学校図書館の貸し出し冊数状況	児童	4.00					
家読に関する協力的な実践状況	保護者	3.50					
豊かな心と社会性の育成	◎1 基本的な生活習慣の形成と規範意識の向上	基本的な生活習慣等が定着しているという認識	学校	3.40	3.45	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や規範意識については、児童と保護者は昨年度以上の結果となっている。スマートフォンやゲーム機等による、生活習慣の乱れは本校に限ったことではなく社会全体の問題ではあるが、児童への指導とともに保護者への啓発を続けていく必要がある。 いじめや不登校について児童アンケートや教育相談を行いながら、早期発見や早期対応の取組を行っている。今後も外部機関の活用も含め、根気強く継続して支援をしていく必要がある。 児童同士トラブルもあるものの、思いやりの心の醸成では概ね良い結果となり、実際の子と優しく接することができる児童は増えている。今後も、道徳教育や特別支援教育の充実を図る必要がある。 少ない児童数ながらよく清掃活動に取り組んでいる。高学年が手本となる、縦割り清掃活動による効果が出ている。無言清掃がもう少しであったので、指導の徹底を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在不登校の児童は、中学校に進学するなど今後学年が上がると復学が厳しくなっているのではないだろうか。不登校になった理由は様々だろうが、地区として民生児童委員など支援を行っているようにしたいと思う。学校でも、少しでも不登校児童を減らせるように外部機関と連携しながら様々な支援策を講じてほしい。 インターネットには裏アカウントによるいじめ問題やネットワークゲーム課金トラブルといった負の面も多くある。昨今はeスポーツやユーチューバーといった良い面だけを取り上げる風潮がある。インターネットには、負の面も多くあることを保護者と連携してしっかりと子どもに伝えてほしい。 子ども同士の子と優しく接することができる児童は増えているとのことであったが、朝の登校時の様子や放課後子ども教室での様子を見ていてもそれが実感できる。今後も個に応じた支援を行ってほしい。
		進んであいさつをしている児童の認識	児童	3.54			
		学校のきまりを守っているという児童の認識	児童	3.50			
	◎2 思いやりの心の醸成	思いやりの心を醸成する活動が充実しているという認識	学校	3.44			
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという児童の認識	児童	3.25			
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという保護者の認識	保護者	3.36			
◎3 環境美化意識の向上	清掃時間の児童の取組状況	学校	3.44				
	清掃時間の児童の認識	児童	3.58				
	環境美化に関する学校の取組状況に関する保護者の認識	保護者	3.60				
体力向上と健康安全意識の育成	◎1 健康や食に関する意識の向上	健康・食育指導の実施状況	学校	3.22	3.51	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、児童にも保護者にも感染症を防ぐことに関する関心が高まっていると考えられる。その反面、長期休業中の1日2日以上歯磨き習慣が身に付いている児童が2割しかないなど、歯磨き、爪切り、ハンカチ等の準備の習慣化に至っていない。継続して家庭と連携し、改善を図っていく必要がある。 身体的接触をはじめとして人的な距離を確保しなければならないなど、多くの活動が制限される中で、感染予防対策を講じながら、体力向上に努めた。11月の体力テストで5月を上回った児童は100%にのぼった。今後も今の取組を継続していく。 休み時間や清掃時間の抜き打ち避難訓練を実施するなど、より実践的な避難訓練を行い、児童も危機意識をもって取り組む姿が見られた。学校および児童と保護者とで数値の乖離が見受けられるが、日常での安全行動ができていないことが原因と考えられる。校内だけでなく、放課後や週末の過ごし方についても指導を徹底する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中に、1日2回以上の歯磨きができる児童が2割ほどしかいないことに驚いた。また、歯磨き以外にも爪をさげんと切る、ハンカチなどの準備をするといった習慣が身に付いていない児童が多いことに驚いた。生活習慣のしつけは確かに家庭の責任であり、家庭への啓発は必要だと思う。しかし、家庭に任せただけでなく、養護教諭を中心として校内で指導を徹底することも必要ではないだろうか。 清掃時間や休み時間などに行なった抜き打ちでの避難訓練は、より実践的な取組として大変素晴らしいと思う。細田地区でも自治会合同の防災訓練を実施しているので、そのような活動と連携することも新しい取組のひとつだと思う。
		生活習慣の改善	児童	3.80			
		早寝早起き朝ごはん等ができてという保護者の認識	保護者	3.28			
	◎2 体力向上プランの実践を通じた体力向上	体力向上プランが機能しているという認識	学校	3.00			
		体力の向上に努めているという児童の認識	児童	4.00			
		学校が体力の向上に努めているという保護者の認識	保護者	3.36			
◎3 安全や防災に関する意識の向上	安全指導の取組状況	学校	3.67				
	行動の仕方が身に付いているという児童の認識	児童	4.00				
	行動の仕方が身に付いているという保護者の認識	保護者	3.24				
学校社会に開かれた推進	◎1 家庭や地域との連携推進	地域の素材・人材の積極的な活用に取り組んでいるという認識	学校	3.00	3.18	<ul style="list-style-type: none"> 限られた活動ではあったが、小中合同地域ボランティア活動や、交流グラウンドゴルフ活動といった、地域との連携や地域人材を活用した学習を行った。また、授業参観および学級懇談の出席率は概ね良好である。今後も出席率を高めるような工夫を継続して行っていく。 学校通信や学級通信を通じて、必要な情報の発信はできた。また、保護者への文書連絡の補完として、電子メールを活用した情報の提供を行い概ね好評であった。今後もネットワークの活用を広げていく。 小中一貫教育に関しては数値は低くなっているものの、細田中校区内の小学校が連携した取組は、例年通り無事に実施することができた。コロナ禍の中で諸活動が制限されたが、新たな試みとしてインターネット回線を利用したオンライン会議を実施した。移動の手段と時間の効率化が図られるというメリットもあり、今後もネット回線を利用した交流を継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブ活動で周辺地区の高齢者との交流グラウンドゴルフ活動を行ったことは大変やり難い。細田地区合同グラウンドゴルフ大会を交流センターで実施しているの、そこに参加するなどしていただくと子どもと交流が増えたいと思う。 小中一貫教育の取組は限られた中でよくされていると思う。一方、細田小学校の責任ではないのだが、細田中学校への進学する子どもの数が少ないことは、大きな問題だと思う。細田中学校、細田小学校、そして何れも細田地区そのものももっと魅力ある学校や地域へとなっていく必要がある。そのため、学校と地域や学校と学校が連携して何か魅力を高めていく新しい取組が必要だろう。
		地域の素材・人材の積極的な活用ができてという保護者の認識	保護者	3.32			
		参観日や懇談を魅力あるものに努めているという認識	学校	3.00			
		参観日や懇談の保護者の出席状況	保護者	3.50			
	◎2 家庭や地域との情報共有の推進	必要な情報をタイミングよく発信しているという認識	学校	3.50			
		家庭や地域と意見交換に努めているという保護者の認識	保護者	3.32			
◎3 小中一貫教育の推進	4校が連携した取組状況	学校	2.75				
	4校が連携した取組をしているという保護者の認識	保護者	3.04				

次年度の方針

- 確かな学力の定着と向上について、ICT機器の利用をより積極的に進め、わかる・できるまで教える授業改善や個別指導の充実にも努め、地域や家庭との連携を図りながら、自ら学ぶ力、他者から学ぶ力を育成する。
- 心の教育の充実について、自己の生き方への考えを深める道徳の時間の工夫を図るとともに、ボランティア活動や縦割り班活動といった日常的な道徳教育の充実にも努め、他者から学ぶ力、社会から学ぶ力を育成する。
- 体力向上及び健康・安全、食育の充実について、日常の保健指導や体育指導に加え、保護者への積極的な情報提供や啓発活動といった連携を図りながら継続的な指導にも努め、自ら学ぶ力、自然から学ぶ力を育成する。
- 社会に開かれた学校づくりの推進について、教育課程の充実と改善を図りながら、地域人材や地域素材の活用といった地域との交流を深めることで地域とともにある学校づくりに努め、社会から学ぶ力、自然から学ぶ力を育成する。